

平成22年度事業報告書

自 平成23年 2 月 1 日
至 平成23年 3 月31日

公益財団法人 **オイスカ**

はじめに

今年度は、まさに激動の一年であったと思います。3月11日、東北・関東地方を襲ったマグニチュード9の大地震とそれに伴う大津波は東北・関東地方の人々に甚大な人的、物質的な被害をもたらしました。一方で、震災前と後では、日本人の心を一変させたと言われていています。今まで失われつつあった“思いやりの心”や“相互扶助の精神”など日本人の規律を重んじた行動が世界からも称賛をうけるという、思わぬ評価も受けております。また、福島第一原発被害を見たとき、人間科学の限界を感じざるを得ない状況が現出してきているといえます。いずれに致しましても、これは日本に与えられた大きな試練でもあると思います。近年のインドネシア・アチェ大地震・津波をはじめ、ハイチ地震、チリの大地震、さらには中国の青海省地震と立て続けに世界各地で自然災害が発生しております。これら人類の生存を脅かすさまざまな自然からの警告を、我々人類は真摯に受け止めなければなりません。このような時であるからこそ、精神と物質の調和した持続可能な社会を目指して活動を続ける、オイスカの使命と役割の大きさを改めて痛感する次第であります。

また、本年はオイスカ創立50周年という節目の年に当たると同時に、国連が「国際森林年」と定め、地球規模で失われている森林の保全を目的に、世界各国で様々な取り組みが計画されております。オイスカとしても、今までの植林や「子供の森」計画などの環境教育の実績を踏まえ、これらの活動に携わって参りたいと考えています。

さて、平成22年度は、①海外開発協力事業、アジア太平洋地域を中心に14カ国44地域において植林等の環境保全活動や現地の研修セターを拠点としての農業を通じた人材育成、地場産業育成のための施設整備・機材供与など、持続可能な産業の開発と促進のための活動を実施しました。また、②「子供の森」計画事業は27の国と地域の参加校が累積で4,410校になりました。児童・生徒を対象に、体験型環境教育プログラムの実施と植林等の環境保全への取り組みを行いました。③人材育成事業では、当法人の発足当初から継続的に取り組んでいる開発途上国からの研修員受け入れを、今年度も様々なコースを通じて実施しました。また、受け入れ拠点である国内4ヶ所の研修センターをはじめ、受け入れ企業や農家等多くの皆さまの支援を得て、将来有用な人材の育成に努めました。④啓発普及事業では、全国組織を通じての様々な啓発事業のほか、森のつみ木広場の開催、海外ボランティア派遣、富士山の森づくり、特に昨年、

国連生物多様性事務局（CBD）と取り交わした覚書に沿った活動として、グリーンウェブを世界各国の「子供の森」計画参加校などで実施することができました。

今年度も厳しい予算編成の中、当初予定しておりました諸々の事業を、多少の変更は余儀なくされたものの、恙無く実施出来ましたことを、会員の皆様をはじめ、ご支援ご協力いただきました法人、個人、全ての関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

今般の未曾有の大震災を受け、オイスカも相当な影響を受けることが予測されます。特に財政的には、厳しい局面に立たされることは必至であろうと推測されますが、組織全体が一丸となってこの危難に立ち向かっていくことが重要であると思っております。今後とも、オイスカ活動へのさらなるご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成 23 年 5 月

公益財団法人 オイスカ
理事長 中野利弘

も く じ

はじめに

1. 海外開発協力事業 1
2. 「子供の森」計画事業 7
3. 人材育成事業 9
4. 啓発普及事業 2 1
5. 参考資料 2 3

1. 海外開発協力事業

1. 総括

平成 22 年度最後の 2 ヶ月となる 2011 年 2 月・3 月も、引き続き、東南アジア 6 カ国、東アジア 1 カ国、南アジア 2 カ国、そして太平洋島嶼国 3 カ国の合計 12 カ国において、環境保全、人材育成の支援を中心に持続可能な開発支援を行った。

環境保全プロジェクトでは森林再生を中心に行っているが、以下に述べたものの他、2 月・3 月が雨季に属するインドネシア等では活発に植林活動などが行われた結果、22 年度全体では、合計で 1,081ha にのぼる面積の植林が実施できた。また、多くの国においては、事業年が 4 月から翌年 3 月までではなく、1 月から 12 月までとなっている。このため、研修センターにおける人材育成については、ほとんどの国で、2 月 3 月は、研修がスタートしたばかりであるが、どこも順調に進められている。

世界各地の住民が、それぞれの地域の持つ自然や文化的特徴を活かしながら持続可能な地域開発が進められることが期待されるが、平成 22 年度も、オイスカの有する特徴的な活動を組み合わせることにより、各々の地域の目指す“ふるさと”の実現へ向けて、支援を実施できた。

2. 地域開発プロジェクト実施成果

1. インドネシア 中部ジャワ・ダマック 地域開発基盤整備プロジェクト

平成 22 年度は 2010 年 4 月から 2011 年 1 月の事業の継続として事業を実施した。2011 年 2 月・3 月については、特に 1 月に実施した植林のモニタリング、さらに 2011 年度の活動について、住民等との意見交換などを行った。

頻繁に調整員が現地を訪問しており、住民等と良い関係が築けている。それにより住民等のニーズに柔軟に対応することも可能になっている。また、県の海洋漁業局からは Mangrove Bahari (村で植林を担当する住民グループ) に対して事務所が貸与された。地域行政からもこの活動に対する評価は高く、今後も発展が見込まれる。

3. 環境保全プロジェクト実施成果

1. マレーシア・サバ州にて「森のつみ木広場」を実施

サバ州の州都であるコタキナバルから車で約 2 時間半の場所にあるラナウ町キリム村で、「森のつみ木広場」の活動のため 1 万個の積み木を製作した。これらの積み木には、地元森林局の許可を得てキリム村近くの森にあるアガチスという木を使用した。アガチスは、加工に適しており建具や家具などに多く使われているナンヨウスギ科の針葉樹。

2011 年 3 月 24 日、オイスカ KPD 青年研修センターのコミュニティーホールにて「森のつみ木広場」の活動を試験的に実施し、ポグオカン小学校の子どもた

ち20名と先生1名が参加した。この活動は、子どもたちがたくさん積み木と触れ合い作品作りをすることで、創造性や協調性を育むことを目的としている。同センターにとって今回が初めての試みだったが、実際に積み木遊びを通して子どもたちが森や自然に対する興味を持ち、友情を育む姿が見られた。参加した小学校の先生からは、森林の大切さ、そして生態系を学ぶ最適な機会として、この活動をさらに多くの子どもたちに紹介してほしいとの声がきかれた。

2. 内モンゴル沙漠化防止（三井物産助成金事業）

2009年10月より三井物産環境基金の助成を受けて内モンゴル阿拉善盟ジラントイ村にて住民参加による植林事業を開始している。2011年の春は活動開始2年目の植林時期となる。

2月から3月の中旬は土壌がまだ凍結しているために、外での活動が殆どできないため、室内で出来る作業を実施した。その他、4月からの植林地の場所の視察・決定、現地NGOのSEEとの補植面での打ち合わせなどをおこなった。

3. フィリピン・ヌエバビスカヤ州にて環境教育キャンプ実施

2010年2月、ヌエバビスカヤ植林プロジェクトのサイトにおいて、「子供の森」計画参加校の生徒・教師が参加して2泊3日の環境教育キャンプを実施した。2009・2010・2011年と、日本再共済連から支援を受けて実施している。キャンプには、同国で「子供の森」計画を実施している州のうち6つの州から70名を超える生徒・教師・「子供の森」計画調整員などが参加した。今回は、生物多様性について学ぶことと、生徒自身が学校や地域で環境保全活動を実施するための動機づけをすることを目的に掲げ、自然の中での体験活動や大学教授を講師に招いての講義などを行った。また最後に、これからどのような活動を行っていくかを州ごとに話し合い、行動計画を作成した。今後、「子供の森」計画調整員がこの行動計画に基づいて各学校の活動をモニタリングし、活動内容の向上に努める。

4. 人材育成プロジェクト実施成果

1. 環境保全に関する研修実施－東ティモール地域開発研修センター

東ティモール地域開発研修センターは、農業研修を主として人材育成を行う施設ではあるが、環境保全の知識・技術研修にも力を入れている。同センターでは、2011年2月8日から11日にかけて、株式会社MMC保険サービスの支援を得て、マングローブの保全について学んでもらうため、スタッフを隣国インドネシアのバリ島にある「マングローブ情報センター（Mangrove Information Centre）」での短期セミナーにスタッフ3名を派遣した。3名が得た知識を3名のみの中にしまっておくには及ばないと、2011年2月17日にセンター内において、他のスタッフや農業研修生並びに家政研修生等センターにて活動する18名に対して、この3名が講師を努めてマングローブ林再生技法に関する研修会を実施した。受講者からは、「植林候補地での土壌状態の確認等、植林前の検討が重要であることを知った。」や、「マングローブ林の再生のためには、

植林に係る技術や知識のみならず、地域住民啓蒙のための知識や技術も必要であろう。」といった感想が聞かれるなど、有意義なものとなった。また、この機会は、発表者自身のプレゼンテーション能力向上にも寄与したと思われる。持続可能な地域開発の担い手を育てる同センターでは今後とも、農業研修に加えて、こうした環境保全に関する学習機会も作っていきたい。

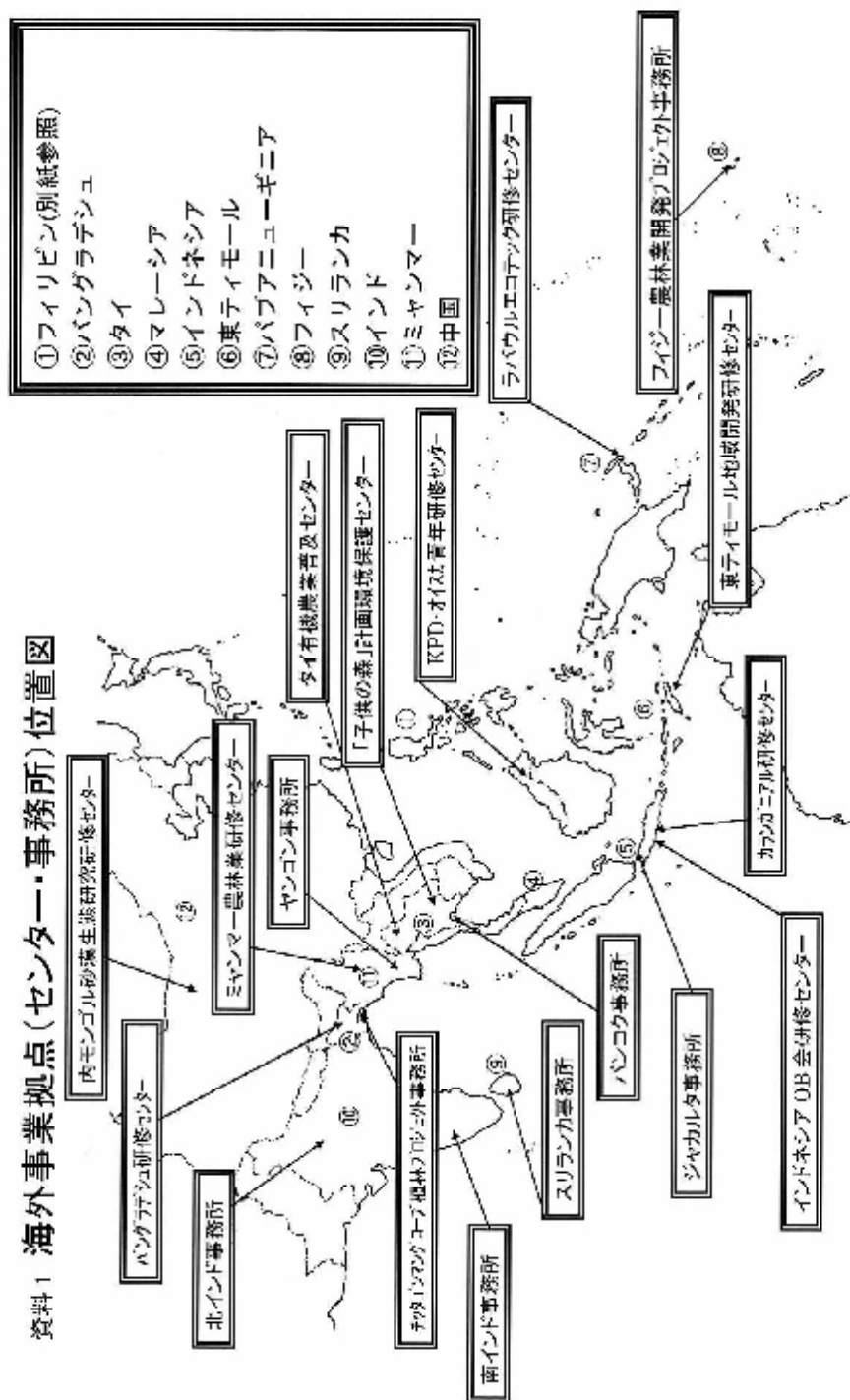
5. 調査研究・専門家・指導員派遣

1. 期 間：平成 23 年 1 月 25 日～4 月 13 日
派遣国：バングラデシュ
派遣者：岡村郁男（農業技術顧問）
内 容：農業技術指導及び業務調整等

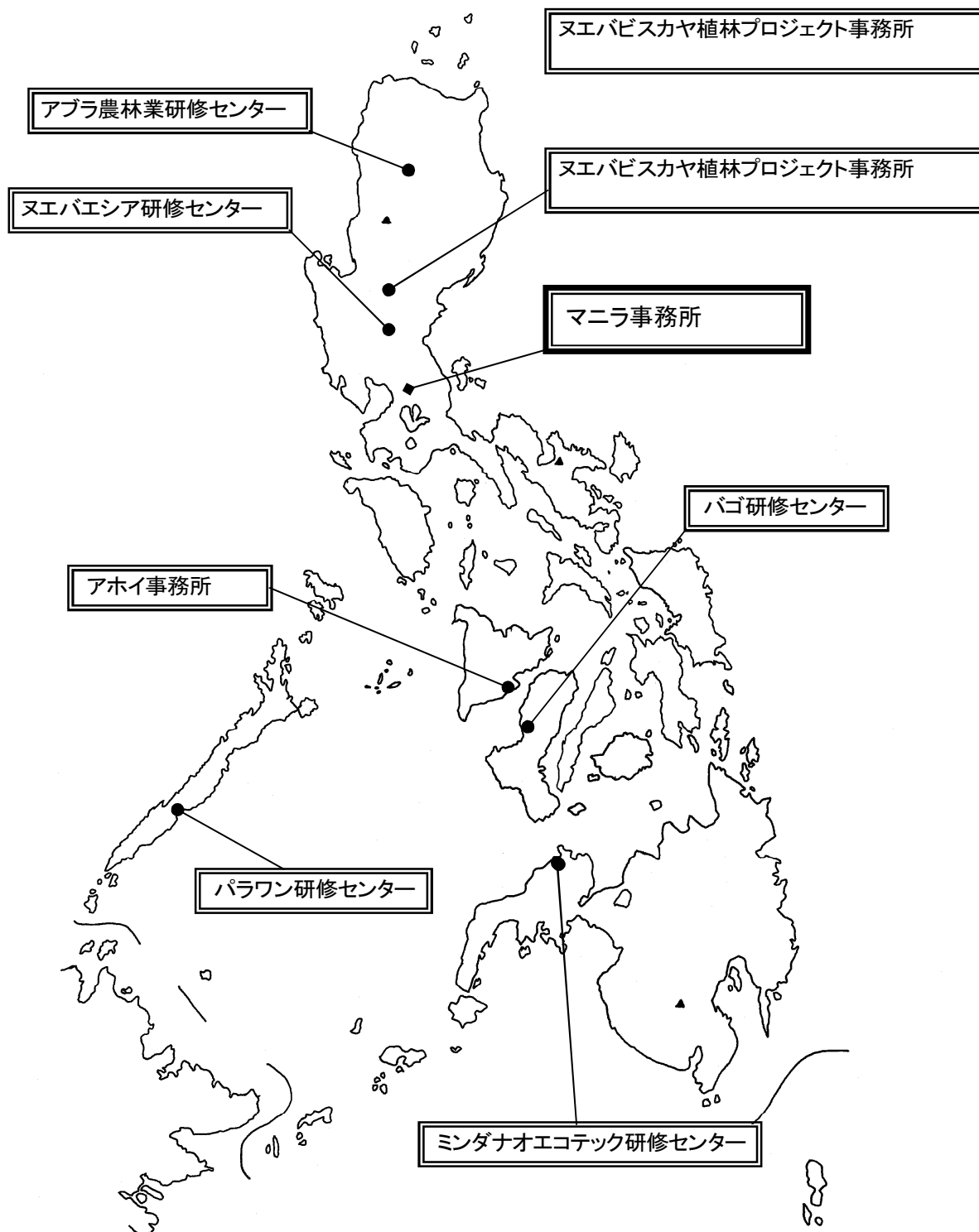
2. 期 間：平成 23 年 1 月 29 日～2 月 5 日
派遣国：パプアニューギニア
派遣者：長 宏行（国際協力部）
内 容：熱帯林保全プロジェクトに関わる業務調整等

3. 期 間：平成 23 年 2 月 27 日～3 月 6 日
派遣国：バングラデシュ
派遣者：長 宏行（国際協力部）
内 容：マングローブ植林プロジェクト形成調査

資料1 海外事業拠点(センター・事務所)位置図



資料2 フィリピン・事業拠点(センター・事務所)位置図



資料3 海外駐在員派遣リスト

	氏名	担当業務
バングラデシュ		
1	安部 雅之	農業技術指導・運営管理
2	渡辺 洋地	調整・渉外
インドネシア		
3	中 垣 豊	農業技術指導・運営管理
4	中垣 アダ	調整・渉外
ミャンマー		
5	藤井 啓介	農業技術指導・運営管理
6	齊藤 祐子	調整・渉外
フィリピン		
7	渡辺 重美	運営管理
8	池田 廣志	運営管理
タイ		
9	春日 智実	運営管理
パプア・ニューギニア		
10	荏原 美知勝	農業技術指導・調整
フィジー		
11	吉 田 孜	運営管理
12	ジョセリン マクソハイ	調整・渉外
13	大木 雅俊	運営管理
東ティモール		
14	伊藤 秀雄	運営管理
15	伊藤 テレシタ	調整・渉外
マレーシア		
16	東海林 珠代	調整・渉外

2. 「子供の森」計画事業

1. 総括

新法人移行後2ヵ月間の「子供の森」計画は、事業開始20年の年のはじまりでもあった。フィリピン、インドネシアでは年度の終わりにあたってコーディネーターが集まり、新年度の活動に向けた研修会を開催した。情報を共有し、意見を交換し、学び合い、活動への大きなインプットとなった。「子供の森」計画は中核となるコーディネーターの力によって20年を積み重ねてきたともいえる。これまでの累計で27の国と地域、4,410校の参加を得るまでに普及した。

3月11日の東日本大震災に対し、「子供の森」計画を通して日本とつながっていた参加校の子どもたちは、励ましのメッセージを寄せ、自分たちのお小遣いから募金を届けてくれた。「子供の森」計画は緑を愛するところを育むだけではなく、それぞれのふるさとを愛するところを育み、遠く日本の支援者とのつながりを強いものにしていくことを再確認した。

国際協力は決して一方的な支援ではなく、関わる人たちがそれぞれの力を合わせて、豊かな明日を築いていく活動であることを示している。特に「子供の森」計画に参加する子どもたちの姿から、教えられることは多い。震災からの復興へも、たくさんの元気を届けてくれることだろう。

2011年2月1日から3月31日までの「子供の森」計画支援口数は677口(3,385,000円)、企業や団体などからの寄附や多くの方から送っていただいた書き損じはがき・ベルマークなどを通じた支援を含めた寄附金総額は5,762,160円、さらに2つの企業からいただいたグローバル「子供の森」基金の増資額は216,585円となった。

2. プロジェクト実施成果

インドネシア

インドネシア国において「子供の森」教育活動は高い評価を得ているが、その活動のほとんどはスカブミ県において実践されているため、この活動を各地に広める事が期待されている。

2月24日から3月1日にかけて、CFP全国調整員のアデ・ヒダヤットとスカブミ県地区CFP調整員のヘンキがオイスカカランガニアル研修センターに出張し、カランガニアルセンターの研修生に対して環境教育の手法を指導した。研修生たちは実際にこの研修で学んだネイチャーゲームを活用して学校児童達に環境教育活動を実践することができた。指導員2名は、学校に同行し、活動に際しての注意点や助言を与える役割を果たした。

3. 人材育成事業

総 括

オイスカの目指す国づくりの基本は「人づくり」であるという基本的考えの下、全国各地の研修現場においては、指導員並びに研修生が共に向いあい、同じ屋根の下で寝食を共にしながら研修目的達成のため真剣に取り組んだ。

中部研修センターにおいて JICA 受託研修による「環境配慮型農業普及員育成コース」が新たにスタートし、アフリカ 3 カ国から 6 名を含む 7 名が研修に入った。

外務省の NGO 事業補助金事業の一環として四国及び西日本研修センターで実施した組織運営・活動能力向上研修については JA 組織など関係機関や地域の方々の協力も得て、有益な研修が実施できた。また、民間企業の国際貢献の一環としてスタートした株式会社三菱 UFJ フィナンシャルグループ支援による「環境保全型農業の指導者育成研修コース」については、3 月 9 日の研修修了式に多くの企業関係者及び研修生の出身国在日大使館員の参加を得て、オイスカの研修や活動に理解を深めていただいた。今後は帰国した研修生のフォローアップにも力を入れ、研修成果を支援者の皆様へ報告していきたい。

ここ数年、国内の関係機関による研修生・技能実習生の受入れが増えるとともに、各地で様々な問題が起きたことから、出入国管理及び難民認定法の改正が行われ、研修・技能実習制度が大きく変更され、来年度は技能実習生の受入れ数の減少が見込まれる。

1) 一般研修事業

オイスカの実施する「一般研修」コースは、中部日本、西日本、四国研修センターで行われている「農業一般」、「農業指導」コースと、関西研修センターを含む各研修センターで行われている「家政」、「国際ボランティア」の分野に分かれて実施した。各コースの研修生は、海外でのオイスカプロジェクトのリーダーとして、または地域における農村開発のリーダーとして、活躍すべく大きな期待と責任が課せられている。

農業分野においては、有機農業技術や栽培管理技術の習得、そして土づくりを基本とした持続可能な農業形態について現場での経験を参考にしながら習得し、その経験を基にそれぞれの地域に合った農業形態を考え、それを実践していくだけの行動力や応用力を身に付けていけるようなカリキュラムで構成して実施した。また、家政の分野においては、調理実習、栄養学、洋裁、華道等の研修に加えて、各地域で展開されている特産品や加工品の開発現場を見学し、それを参考にしながら地域開発の在り方について理解を深めていく機会を設けた。限られた研修期間の中で、これらの条件を習得することは非常に困難なことではあるが、常に目的意識を持ち、母国における様々な問題や課題と向き合いながら研修に取り組むことで、より有意義な経験を積むことが出来るよう指導に努めた。今後も海外

人材育成事業

の現場と情報を共有しながら、研修生の帰国後に活躍できる舞台を共に築いていきたい。

① 研修生受入状況（国別および研修科目別）

研修科目 \ 国 別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	パプア・ニューギニア	フィリピン	パキスタン	フィジー	タイ	東ティモール	合計
国際ボランティア				1						1
農業一般	2		1	2		1	1	1	1	9
家政		3	1	1	3					8
農業指導	1		3		1					5
養蚕					3					3
合計	3	3	5	4	7	1	1	1	1	26

② 研修生氏名一覧

No	氏名	国名	科目(委託先)	期間
本部 (3名)				
1	Mr. Geraldine Sardo Mitchao	フィリピン	養蚕(芦沢養蚕)	2011.2-2011.12
2	Mr. Arman Catalbas Cauntao	フィリピン	養蚕(関場蚕業)	2011.2-2011.12
3	Mr. Virgilio Jumawan Rebayla, Jr.	フィリピン	養蚕(関場蚕業)	2011.2-2011.12
西日本研修センター(4名)				
4	Ms. Alexius Prisca	マレーシア	家政	2009.3-2011.3
5	Ms. Barth Judith	PNG	家政	2009.3-2011.3
6	Mr. Chit Ko Ko Lat	ミャンマー	農業指導	2010.4-2011.7
7	Ms. Benjamin Dymphna Binti	マレーシア	家政	2010.4-2012.4
中部日本研修センター(10名)				
8	Ms. Marisol Mallari Salvador	フィリピン	家政	2009.2-2011.2
9	Mr. Bona Abraham	インドネシア	農業指導	2010.2-2011.4
10	Ms. Timothy Mischiel Tiffanys	マレーシア	家政	2010.2-2012.2
11	Mr. Namosimalua Saimoni	フィジー	農業一般	2010.2-2011.4
12	Mr. Nerong Junior Kopoan	PNG	農業一般	2010.2-2011.4
13	Mr. Min Thein Lwin	ミャンマー	農業一般	2010.2-2011.4
14	Mr. Jonnel Marguez Villareal	フィリピン	農業指導	2011.2-2012.4
15	Ms. Villarosa Lea Tisara	フィリピン	家政	2011.2-2013.2
16	Mr. Kukman Hakim	インドネシア	農業一般	2011.2-2012.4
17	Mr. Allan Joe Patrick	PNG	農業一般	2011.2-2012.4
四国研修センター(7名)				
18	Mr. Moe Win	ミャンマー	農業指導	2010.2-2011.2
19	Ms. Nakat Aphichet	タイ	農業一般	2010.2-2011.2
20	Mr. Younas Muhammad Yousaf	パキスタン	農業一般	2010.2-2011.2
21	Mr. Asep Saifulloh	インドネシア	農業一般	2010.2-2011.2
22	Mr. De Jesus Da Costa Alexandrino	東ティモール	農業一般	2010.2-2011.2
23	Ms. Khaing Zar Lwin	ミャンマー	家政	2010.2-2012.2
24	Mr. Thein Hlaing	ミャンマー	農業指導	2011.3-2012.6
関西研修センター(2名)				
25	Mr. Konentang Patrik	PNG	国際ボランティア	2009.9-2011.9
26	Ms. Lanzaderas Roida	フィリピン	家政	2009.9-2011.9

③ 環境保全型有機農業指導者育成研修

環境保全型の農業を広く普及させるためには、各地域で指導にあたる人材の育成が急務となる。手始めとして持続可能な環境保全型農業を身に付け地域のリーダーとなりうる人材のキャパシティ・ビルディングを行い、国の基盤である農業を如何に持続可能なものにしていくか、農業を取り巻く環境をいかに保全していくか、今後の大きな課題となっている。本研修コースは、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）の支援と協力で平成23年2月1日から平成23年3月11日までの期間、7カ国から9名の研修生を西日本研修センターで受入れ、環境保全に配慮しながら進めていく有機農業の技術等、特に土づくりを基本とした各国でも応用できる農業形態の指導をすすめ、自国における村づくり、持続可能な農業を基本とした地域開発に貢献できる人材の育成を目的として実施した。

No	氏名	国名
1	Mr. Theng Sok Hou	カンボジア
2	Mr. Rokobati Waisake	フィジー
3	Mr. Pullorammal Krishnankutty Praveen Kumar	インド
4	Ms. Khatanbaatar Khishigt	モンゴル
5	Ms. War War Hlaing	ミャンマー
6	Mr. Tangap Simon Gaius	パプアニューギニア
7	Mr. Lopez Mario Lorenzo Caoile	フィリピン
8	Mr. Racelis Mark John	フィリピン
9	Mr. Tenzin Norbu	インド

④ 研修生送出し機関

本年度における研修生の現地送出し機関は下記の通りである。

1. インドネシア オイスカ・インドネシア事務所
2. マレーシア オイスカ・マレーシア総局
KPD／オイスカ青年研修センター
3. パプアニューギニア オイスカ・ラバウル・エコテック研修センター
4. フィリピン オイスカ・フィリピン マニラ事務所
5. カンボジア オイスカ・カンボジア総局
6. ミャンマー オイスカ・ミャンマー農林業研修センター
7. バングラデシュ オイスカ・バングラデシュ ダッカ事務所
8. パキスタン オイスカ・パキスタン ラホール支局
9. フィジー オイスカ・NYTCフィジー農林業開発プロジェクト
10. タイ オイスカ・タイ総局
11. インド オイスカ南インド事務所

2) 技能実習事業

① 農業技能

オイスカの国内研修センター内で実施される研修課目以外に、外部の農家等に委託して行う研修を現地送出機関の強い要望により実施した。研修生は入国後、国内研修センターで約3カ月間の日本語・生活習慣等を身につける基礎研修を修了し、それぞれの委託先へ配属となる。本事業の特色として、実際の現場で技術技能を身につけることができ研修終了後、母国に帰り地域開発の即戦力的な人材として農村社会の振興に寄与している。

農業技能実習生氏名一覧

No	氏名	国名	委託先	期間
耕種農業 施設園芸 育苗(4名)				
1	Mr. Padpad Michel Villanueva	フィリピン	(株)サソ・プラント	2010.6-2013.6
2	Mr. Dejillo Salvador Tolentino	フィリピン	(株)サソ・プラント	2010.6-2013.6
3	Mr. Dela Cruz Dennis Pascua	フィリピン	(株)サソ・プラント	2010.6-2013.6
4	Mr. Trube Jeremie Ocumen	フィリピン	(株)サソ・プラント	2010.6-2013.6
耕種農業 畑作・野菜(1名)				
5	Mr. Nofiyar Arif Wibowo	インドネシア	竹田農場	2008.2-2011.2
耕種農業 施設園芸 観葉植物栽培(1名)				
6	Mr. Derry Cristover Rambang	インドネシア	吉田園芸	2010.2-2013.2
耕種農業 施設園芸 菊栽培(4名)				
7	Mr. Evi Sunandar	インドネシア	山本園芸	2010.2-2013.2
8	Mr. Hasanudin	インドネシア	石本園芸	2010.2-2013.2
9	Ms. Michelle Quilaton Luntayao	フィリピン	森田農園	2010.5-2013.5
10	Ms. Alicia Marcos Dungo	フィリピン	森田農園	2010.5-2013.5
耕種農業 施設園芸(3名)				
11	Mr. Michael Palaca Maghinay	フィリピン	仙寿園	2009.2-2012.1
12	Mr. Yuzair @ Uzair Bin Ali	マレーシア	(有)佐野	2009.2-2012.1
13	Mr. Israel Bin Minson	マレーシア	(有)佐野	2009.2-2012.1
耕種農業 畑作・野菜(8名)				
14	Mr. Duanis Norbert	マレーシア	竹内章雄	2010.3-2013.3
15	Mr. Luther Bradley Dodoy	フィリピン	山本農場	2010.5-2013.5
16	Mr. Lomeda Rodel America	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2010.6-2013.6
17	Mr. Ellaga Richard Rave	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2010.6-2013.6
18	Mr. Ducusin Michael Ella	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2010.6-2013.6
19	Mr. Lucena Schubert Andrada	フィリピン	當山農場	2010.6-2013.6
20	Mr. Gundran Ricardo Jr. Gallardo	フィリピン	當山農場	2010.6-2013.6

人材育成事業

21	Mr. Tundan Roderick Estorninos	フィリピン	富山農場	2010.6-2013.6
畜産農業 養鶏(5名)				
22	Mr. Renly Litow Mawey	インドネシア	永井養鶏園	2009.2-2012.2
23	Mr. Tuzon Michael Verzosa	フィリピン	ヒグチファーム	2008.6-2011.5
24	Mr. Edy Mulyadi	インドネシア	東山産業	2010.3-2013.3
25	Mr. Georgilie bin Gumsimil	マレーシア	ヒグチファーム	2010.5-2013.5
26	Mr. Epogon Rix Sangilan	フィリピン	永井養鶏園	2010.2-2013.2
畜産農業 養豚(7名)				
27	Mr. Ronaldo Tagbo Sarmiento	フィリピン	トヨタファーム	2009.2-2012.1
28	Mr. Marius Bin Johanes	マレーシア	吉田畜産	2008.2-2011.2
29	Mr. Jessie Morales Dela Torre	フィリピン	日向養豚	2009.2-2012.1
30	Mr. Pacaldas Adonis Jr. Agondes	フィリピン	日向養豚	2010.2-2013.2
31	Mr. Anjarik bin Maang	マレーシア	吉田畜産	2010.2-2013.2
32	Mr. Paner Mark Gil Bael	フィリピン	吉田畜産	2010.2-2013.2
33	Mr. Oriel Romeo Jr. Akong	フィリピン	トヨタファーム	2010.2-2013.2
畜産農業 酪農(6名)				
34	Mr. Wilson bin Gubi	マレーシア	小笠原牧場	2009.2-2012.1
35	Ms. Monaliza Dalay-on Maguensay	フィリピン	吉浦牧場	2009.2-2012.1
36	Ms. Maribel Mercolicio Borgonia	フィリピン	吉浦牧場	2009.2-2012.1
37	Mr. Madrenino Sunday Abella	フィリピン	アイアイディ	2009.12- 2012.12
38	Mr. Odo bin Asip	マレーシア	小笠原牧場	2010.2-2013.2
39	Mr. Mario Trongco Tepredano	フィリピン	岡牧場	2010.5-2013.5

【実習科目及び国別技能実習生数】

実習科目	国 別			合 計
	フィリピン	マレーシア	インドネシア	
育苗	4			4
稲作・蔬菜			1	1
観葉植物栽培			1	1
菊栽培	2		2	4
施設園芸	1	2		3

野	菜	7	1		8
養	鶏	2	1	2	5
養	豚	5	2		7
酪	農	4	2		6
合	計	25	8	6	39

② 工業技能

開発途上国が産業発展を推し進める中で、先進諸国での当該技術の習得を希望する青年は少なくない。その一方で、日本では頒布されて久しい工業技術も途上国では依然として多くの地域で不足し必要とされている。当法人では、工業技術の領域を広げ、そうした多様なニーズに対応するため、工業分野において技能実習制度を導入している。また技術・技能を習得することのみならず、

- (1) 国家の基幹産業である農業への理解を通じて郷土愛、国土愛を涵養
- (2) 勤労精神の涵養
- (3) 日本語、及び日本文化学習
- (4) リーダーシップ養成
- (5) 集団生活に慣れる

等の多岐にわたった目的をもっている。また実際の会社組織の一員となることで現場社会の厳しさや責任感を身につけることができる。研修現場では評価も高く、委託企業担当者も本事業の趣旨に賛同し積極的に指導して頂き国際協力の現場として担っていただいている。

工業技能実習生氏名一覧

No	氏名	国名	委託先名	期間
印刷 (2名)				
1	Mr. Mohammad Shamsul Hoque	バングラデシュ	プリー・テック	2008.6-2011.5
2	Mr. Mohammod Nazrul Islam Bhuiyan	バングラデシュ	半田中央印刷→ プリー・テック	2009.10- 2012.9
機械加工 (18名)				
3	Mr. Azribfizlan bin Awalluddin	マレーシア	アーレスティブリテック	2008.7-2011.6
4	Mr. Khairul Nizam bin Mhod Salleh	マレーシア	アーレスティブリテック	2008.7-2011.6
5	Mr. Muhammad Faiz bin Ismail	マレーシア	アーレスティブリテック	2008.7-2011.6
6	Mr. Mohd. Rizal bin Mohamad	マレーシア	アーレスティブリテック	2008.7-2011.6
7	Mr. Mohd. Shahrul bin Shaudin	マレーシア	アーレスティブリテック	2008.7-2011.6
8	Mr. Sanorizwan bin Sadili	マレーシア	アーレスティブリテック	2008.7-2011.6
9	Mr. Ezzad Zaffiq bin Maulop	マレーシア	大洋製作所	2008.7-2011.6
10	Mr. Mohd. Faisal bin Muhammad	マレーシア	大洋製作所	2008.7-2011.6

人材育成事業

11	Mr. Abdul Karim bin Omar	マレーシア	大洋製作所	2009.6-2012.5
12	Mr. Benas Diomedes Degombis	フィリピン	平井工業	2009.9-2012.9
13	Mr. Briones Ryan Talingdan	フィリピン	平井工業	2009.9-2012.9
14	Mr. Khairuddin bin Mohd Shah	マレーシア	アーレスティブリテック	2010.6-2013.5
15	Mr. Abdul Muiz bin Mohd Rashid	マレーシア	アーレスティブリテック	2010.6-2013.5
16	Mr. Muhammad Nasrul bin Lob Ahmad	マレーシア	アーレスティブリテック	2010.6-2013.5
17	Mr. Mohd Razali bin Mohd Marwi	マレーシア	大洋製作所	2009.6-2012.5
18	Mr. Valerio Larry Vargas	フィリピン	古川工業	2008.2-2011.2
19	Mr. Birad Diosdado Ibanez	フィリピン	古川工業	2008.2-2011.2
20	Mr. Ido Joel Avila	フィリピン	古川工業	2008.2-2011.2
機械保全 (2名)				
21	Mr. Yusfazilan bin Wahid	マレーシア	清明エンジニアリング	2009.2-2012.2
22	Mr. Mohd. Yuzulazwan bin Jaafar	マレーシア	清明エンジニアリング	2009.2-2012.2
金属プレス (5名)				
23	Mr. Muhamad Yunos bin Alias	マレーシア	清明電機	2008.7-2011.6
24	Mr. Hasanul Azlan bin Abdul Halim	マレーシア	清明電機	2008.7-2011.6
25	Mr. Mohd. Fauzi bin Harun	マレーシア	清明電機	2008.7-2011.6
26	Mr. Ahmad Syahir bin Ahmad Razifuddin	マレーシア	清明電機	2010.6-2013.5
27	Mr. Mohd Firdaus bin Pahim	マレーシア	清明電機	2010.6-2013.5
建設機械施工 (4名)				
28	Mr. Mohd. Illiyas Yassier bin Mohd. Rafe	マレーシア	中村建設	2008.7-2011.6
29	Mr. Muhammad Rafe bin Rosli	マレーシア	中村建設	2008.7-2011.6
30	Mr. Muhammad Abdur Rahman bin Oma	マレーシア	中村建設	2010.6-2013.5
31	Mr. Mohamad Azmeer bin Azian	マレーシア	中村建設	2010.6-2013.5
鍛造 (2名)				
32	Mr. Beato Nilo Dichoso	フィリピン	愛知製鋼	2009.2-2012.1
33	Mr. Guinaban Benedict Baniqued	フィリピン	愛知製鋼	2009.2-2012.1
電気めっき (2名)				
34	Mr. Abd. Razak Firdaus bin Ishsak	マレーシア	神谷理研	2008.7-2011.6
35	Mr. Mohd. Sufian bin Hassan	マレーシア	神谷理研	2008.7-2011.6
塗装 (2名)				
36	Mr. Suprianto	インドネシア	鈴木サービス工場	2009.2-2012.1
37	Mr. Taberdo Rufo Casigay	フィリピン	鈴木サービス工場	2009.9-2012.9
内装仕上げ (1名)				
38	Mr. Mohd. Adam bin Abdul Rani	マレーシア	加藤建材	2008.7-2011.6
バルブ製造 (3名)				
39	Mr. Juvida Jayson Leonor	フィリピン	古川工業	2009.9-2012.9

40	Mr. Amil Jeriel Bahia	フィリピン	古川工業	2009.9-2012.9
41	Mr. Santiago Raphaelito Galapay	フィリピン	古川工業	2009.9-2012.9

【実習科目及び国別技能実習生数】

実習科目	国 別				合 計
	バ ン グ ラ デ シ ユ	イ ン ド ネ シ ア	マ レ ー シ ア	フ ィ リ ピ ン	
印刷	2				2
機械加工			13	5	18
機械保全			2		2
金属プレス			5		5
建設機械施工			4		4
鍛造				2	2
電気めっき			2		2
塗装		1		1	2
内装仕上げ			1		1
バルブ製造*				3	3
合計	2	1	27	11	41

3) 外務省 NGO 事業補助金事業

本年度は外務省NGO事業補助金を受け、2カ所のセンターで計10名の研修生を平成23年2月から平成23年3月の期間受入れた。

① 組織運営・活動能力向上支援研修（オイスカ西日本研修センター）

開発途上国における農村地域の発展は、それら諸国の経済社会の発展を推進していく上で最も重要な位置を占めている。そのため主体となりうる農村地域の青年、現地NGO・政府関係者に対し持続可能な地域開発と農村地域の全般的な発展に資する技術・技能・知識を提供し、農村開発指導者としての能力向上の為の人材育成普及型研修を実施した。

西日本研修センター 研修科目：農業一般<5名>

	氏 名	国 名	期 間
1	Mr. Christopher Richard Bwebwete	フィジー	2011.2.1 - 2011.3.11
2	Ms. Sape Thin	ミャンマー	2011.2.1 - 2011.3.11
3	Ms. Nani Apriani	インドネシア	2011.2.1 - 2011.3.11

人材育成事業

4	Mr. Verutti Hugo Ramon	パラグアイ	2011.2.1 - 2011.3.11
5	Mr. Gare Derrick Valuka	パプアニューギニア	2011.2.1 - 2011.3.11

② 組織運営・活動能力向上支援研修（オイスカ四国研修センター）

発展途上国を開発していくためには女性の地位向上が必要である。そのために女性の生活改善を指導する人材の育成を目的とし、能力向上の為の人材育成普及型研修を実施した。

四国研修センター 研修科目：農村女性の生活改善と村づくり<5名>

	氏名	国名	期間
1	Ms. Pohakiu Miriam	パプアニューギニア	2011.2.1 - 2011.2.6
2	Ms. Pratiwi Adyo Wulandari	インドネシア	2011.2.1 - 2011.2.6
3	Ms. Tenzin Yangchen	インド	2011.2.1 - 2011.2.6
4	Ms. Kingay Leah Chagwaten	フィリピン	2011.2.1 - 2011.2.6
5	Ms. Macawili Maria Fe Agustin	フィリピン	2011.2.1 - 2011.2.6

国別 研修科目	ミ	イ	パ	イン	フ	パ	フ	合計
	ヤ	ン	プ	ド	イ	ラ	イ	
	ン	ン	ア	ネ	ジ	グ	リ	
	マ	ド	ニ	シ	ル	ア	ピ	
	ル		ュー	ア		イ	ン	
			ギ					
			ニア					
農業一般	1		1	1	1	1		5
農村女性の生活改善 と村づくり		1	1	1			2	5
合計	1	1	2	2	1	1	2	10

4) 独立行政法人 国際協力機構（JICA）受託研修事業

独立行政法人国際協力機構よりの研修員受託事業を中部日本研修センターで実施した。

① 平成22年度「環境配慮型農業普及員育成」コース

- (1) 研修期間：平成23年2月17日～平成23年3月31日
- (2) 研修場所：公益財団法人オイスカ 中部日本研修センター
- (3) 研修生名：

	Name	国籍
1	Mr. Faifuaina Viane	サモア
2	Mr. Retselisitsoe Rabeisi John	レソト
3	Mr. Molete Lesetla Sidwell	レソト

4	Mr. Milimo Mudenda John	ザンビア
5	Mr. Mufaya Handenma	ザンビア
6	Mr. Shaibu Imrani Kananji	マラウイ
7	Ms. Mphatso Mbnlukwa	マラウイ

5) 国際協力ボランティア育成事業

当法人は長年、人材育成を通じて国づくりの基盤である開発途上国における農村地域の発展に寄与してきている。しかし近年は、わが国の産業構造の変化に伴い、農業分野での若手人材が大きく減少しており、国際協力の分野で活躍が期待できる人材の確保が著しく困難な状況となっている。

そうしたなか、将来この分野での貢献を目指そうとするわが国の数少ない若者たちの育成は、欠かすことのできない喫緊の課題である。

本事業は、国内外で推進する国際協力活動、及び関連業務（活動）を1年間の体験を通じて理解を深め、将来にわたって当法人を含むわが国 NGO、さらには広く国際貢献を担う人材の養成を行った。参加した3名全員が強くオイスカで活動することを希望し、職員として採用することになった。

- 1) 対象者：3名
- 2) 研修期間：平成23年2月1日～平成23年3月31日
- 3) 名簿

氏名	性別	研修場所
伊藤 夏樹	男	フィリピン・バゴ研修センター
竹久 和弥	男	インドネシア・スカブミ研修センター
永尾 智子	女	東京本部、タイ・ランプーン研修センター

4. 啓発普及事業

総括

事業期間としては僅か2ヶ月であり、また年度末でもあることから、まとめの期間に相当し、そのため事業活動も限られたものとなったが、当初の計画に準じた事業が展開され啓発普及として一定の成果を得ることが出来た。

① 講演会・セミナー内容

組織名	事業名	日時	参加者数	場所
岐阜県支部	オイスカ「子供の森」交流会	2/6	113名	南帷子小学校
関西支部	ワンワールドフェスティバル	2/5・6	17,000名	大阪国際交流センター

② 資料の作成・配布、インターネットでの情報配信確認

月刊誌の制作・配布

誌名：月刊「OISCA」

体裁：A4/4色刷り/16ページ

概要：オイスカの活動の近況、会員・支援者の紹介記事、時事的なトピックスに応じた特集記事、現場レポート、イベント参加情報などを記載している。

③ 森林整備活動

●企業等との協働による森林保全活動

平成23年2月～3月は実際の森林整備活動は実施されていないが、企業・団体・行政などと協働で実施している「富士山の森づくり」の取り組みの中で、推進協議会の総会及びモニタリング報告会を開催した。1年間の取り組みを振り返り、次年度の計画を検討すると同時に、植林地で継続して実施しているモニタリング調査についての報告がなされた。植栽後順調に生長している反面、植林地周辺に生息するシカの頭数が多いことが懸念点としてあげられており、一度崩れた生態系のバランスを回復することの難しさと同時に、その中での森林保全活動の難しさを共有し、更に協力した体制でプロジェクトを推進することの必要性が確認された。

●全国各組織の環境保全活動

平成23年2月～3月末には2県にて、地元行政や林業事業体、地元NPO各種団体などと協働し、森づくり等の環境保全活動を実施。直接的に環境保全活動の意義を広く理解して頂いた。

組織名	事業名	期日	参加者数	場所
-----	-----	----	------	----

静岡県支部	放置竹林整備事業	2～3月・日曜	200人	静岡市清水区
愛媛県支部	Mt.LOVE10	3/6	70人	松山市
西日本後援会	桜島植林	3/6	20人	鹿児島市

④各種体験活動

●森のつみ木広場

「森のつみ木広場」は、普段森に行くことができない子どもたちにも、木の香り、温もりに触れることで、木や森へ興味を持ってもらうと同時に、友だちと協力して作品を作る中で協調性、創造性を育んでもらいたい。また、国産材が活用されないことが一因で衰退している日本の林業に対し、間伐材の利用により木を伐採し、加工、販売するという国産材の流通を促進し、木を植え、育て活用し、また森に還元するという森づくりの循環に寄与したいという目的のもと、「間接的な森づくり」の活動と捉え、05年から取り組んでいる。

活動開始から5年を迎え、(株)SNK プレイモアやサミット(株)などの支援を受け、つみ木を製作し、「森のつみ木広場」を展開している支部支局などは20都道府県にまで広がった。「森のつみ木広場」は、支部会員やボランティアが参加できるイベントの一つとなり、また多くの子どもやその親とも接点を持ち、オイスカの活動を広く一般の知ってもらい、触れてもらうきっかけにもなっている。

平成23年2月～3月にかけては、下記の通り活動を実施した。狛江市第6小学校のように、前年度、同市で実施した「森のつみ木広場」の評判を受けて新たに依頼があるなど、1回の「森のつみ木広場」が次につながっていくケースも増えてきている。

日程	開催場所・イベント名等
2011年2月5日	狛江市立第6小学校(東京都狛江市)
2011年2月14日	大阪市立滝川幼稚園(大阪府大阪市)
2011年3月6日	第3回子供と昔子供だった人のためのフェスティバル(三重県)
2011年3月7日	大阪教育大学付属平野小学校(大阪府大阪市)
2011年3月10日	大阪市立今宮小学校(大阪府大阪市)
2011年3月30日	横浜市立本郷台小学校(神奈川県横浜市)

●海外ボランティア派遣

フィリピン・アブラ州は、北海道支部と深い関わりがあり、かつて、アブラ州立大学の片隅にあったオイスカ研修センターは、同支部の支援で現在の場所に建設された。その後、研修センターは現地スタッフで運営されるようになったが、引き続き北海道支部からは様々な支援を受けているため、今回の現地での記念行事には職員を含めて7名が参加した。

グループ名	期間	人数	訪問先
北海道支部	3月3日～9日	7名	フィリピン(アブラ研修センター)

組織の運営

平成 22 年度(2～3月期)においては理事会を2回開催し、健全な運営に努めた。
会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

1. 会議の開催

(1) 理事会

①平成 22 年度第1回 理事会

日時:平成 23 年 2 月 25 日(金)

場所:公益財団法人オイスカ本部

- 議題:1.平成 22 年度事業計画・予算(案)について
2.諸規程の整備について
3.会長の推戴及び顧問・参与の委嘱(案)について
4.支部会長の選任(案)について
5.オイスカの冠を使用した推進協議会等(案)について
6.支部内に設置する連絡事務所(案)について
7.常務理事の代行順序(案)について
8.資金運用執行責任者の任命承認について
9.常勤役員の報酬月額(案)について
10.その他(報告事項等)

②平成 22 年度第2回 理事会

日時:平成 23 年 3 月 17 日(木)

場所:ルポール麴町(麴町会館)

- 議題:1.旧法人平成 22 年度事業報告・決算(案)及び監査報告
2.移行後の基本財産・特定資産等の期首設定(案)について
3.平成 23 年度事業計画・収支予算(案)について
4.経理規程の一部修正及び諸規程等の整備について
5.顧問の委嘱(案)及び承諾状況報告について
6.平成 23 年度第 1 回評議員会の開催(案)について
7.その他(報告事項等)

2. 役員

平成 23 年 3 月 31 日現在における当法人の役員は次の通りである。

(1) 評議員

No.	氏名	役職
1	荒木 光 弥	国際開発ジャーナル社 代表取締役
2	岡田 康 男	弁護士
3	岡本 隆 之	(財)国際文化交友会 常務理事
4	神野 重 行	(株)名鉄百貨店 取締役社長
5	篠塚 徹	拓殖大学 副学長・教授
6	進士 五十八	早稲田大学大学院 客員教授
7	常盤 百 樹	四国電力(株) 代表取締役会長
8	友田 和 臣	(学)中野学園 副理事長
9	中村 利 雄	日本商工会議所 専務理事
10	奈良 毅	東京外国語大学 名誉教授
11	廣野 良 吉	成蹊大学 名誉教授
12	ペマ・ギャルポ	桐蔭横浜大学大学院 教授

(2) 代表理事

No.	氏名	役職
1	中野 利 弘	理事長、オイスカ・インターナショナル副総裁
2	渡邊 忠	副理事長、元事務局長

(3) 業務執行理事

No.	氏名	役職
1	永石 安 明	専務理事、事務局長
2	廣瀬 道 男	常務理事、前事務局長
3	新屋 敷 道保	常務理事、元事務局長

(4) 理事

No.	氏名	役職
1	川口 文 夫	中部経済連合会 会長
2	杉浦 正 行	元安城市長
3	谷村 健	清和総合建物(株) 顧問
4	樋泉 克 夫	愛知県立大学外国語学部 教授
5	榎本 晃 章	東京電力(株) 顧問
6	松尾 新 吾	九州電力(株) 代表取締役会長

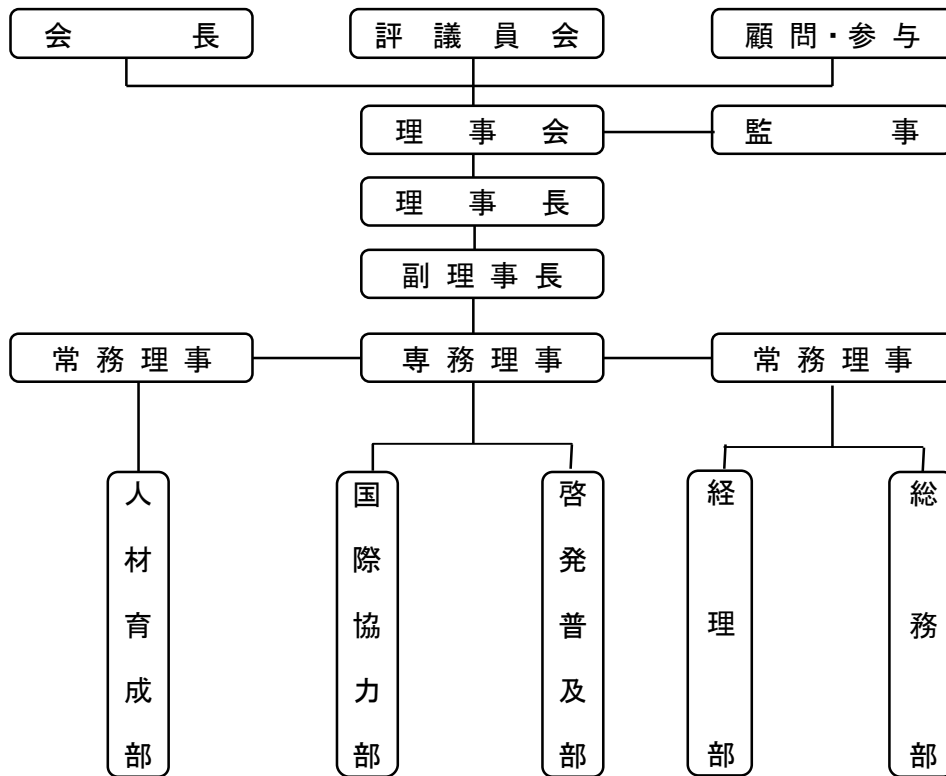
(5) 監事

No.	氏名	役職
1	榎本 哲 也	弁護士
2	神山 敏 夫	公認会計士
3	鈴木 稔 充	弁護士

〈50音順、平成 23 年 3 月 31 日現在〉

3. 事務機構及び職員

(1) 機構図



〈平成 23 年 3 月 31 日現在〉

(2) 職員

平成 23 年 3 月 31 日現在における本法人職員は次のとおりである。

事務所	職員	職員数
本部		65
西日本研修センター		17
中部日本研修センター		18
四国研修センター		7
関西研修センター		3
地方組織		17
合計		127

組織の運営

平成 22 年度(2～3月期)においては理事会を2回開催し、健全な運営に努めた。
会議、役員、職員、賛助会員に関する件は次のとおりである。

1. 会議の開催

(1) 理事会

①平成 22 年度第1回 理事会

日時:平成 23 年 2 月 25 日(金)

場所:公益財団法人オイスカ本部

- 議題:1.平成 22 年度事業計画・予算(案)について
2.諸規程の整備について
3.会長の推戴及び顧問・参与の委嘱(案)について
4.支部会長の選任(案)について
5.オイスカの冠を使用した推進協議会等(案)について
6.支部内に設置する連絡事務所(案)について
7.常務理事の代行順序(案)について
8.資金運用執行責任者の任命承認について
9.常勤役員の報酬月額(案)について
10.その他(報告事項等)

②平成 22 年度第2回 理事会

日時:平成 23 年 3 月 17 日(木)

場所:ルポール麴町(麴町会館)

- 議題:1.旧法人平成 22 年度事業報告・決算(案)及び監査報告
2.移行後の基本財産・特定資産等の期首設定(案)について
3.平成 23 年度事業計画・収支予算(案)について
4.経理規程の一部修正及び諸規程等の整備について
5.顧問の委嘱(案)及び承諾状況報告について
6.平成 23 年度第 1 回評議員会の開催(案)について
7.その他(報告事項等)

2. 役員

平成 23 年 3 月 31 日現在における当法人の役員は次の通りである。

(1) 評議員

No.	氏名	役職
1	荒木 光 弥	国際開発ジャーナル社 代表取締役
2	岡田 康 男	弁護士
3	岡本 隆 之	(財)国際文化交友会 常務理事
4	神野 重 行	(株)名鉄百貨店 取締役社長
5	篠塚 徹	拓殖大学 副学長・教授
6	進士 五十八	早稲田大学大学院 客員教授
7	常盤 百 樹	四国電力(株) 代表取締役会長
8	友田 和 臣	(学)中野学園 副理事長
9	中村 利 雄	日本商工会議所 専務理事
10	奈良 毅	東京外国語大学 名誉教授
11	廣野 良 吉	成蹊大学 名誉教授
12	ペマ・ギャルポ	桐蔭横浜大学大学院 教授

(2) 代表理事

No.	氏名	役職
1	中野 利 弘	理事長、オイスカ・インターナショナル副総裁
2	渡邊 忠	副理事長、元事務局長

(3) 業務執行理事

No.	氏名	役職
1	永石 安 明	専務理事、事務局長
2	廣瀬 道 男	常務理事、前事務局長
3	新屋 敷 道保	常務理事、元事務局長

(4) 理事

No.	氏名	役職
1	川口 文 夫	中部経済連合会 会長
2	杉浦 正 行	元安城市長
3	谷村 健	清和総合建物(株) 顧問
4	樋泉 克 夫	愛知県立大学外国語学部 教授
5	榎本 晃 章	東京電力(株) 顧問
6	松尾 新 吾	九州電力(株) 代表取締役会長

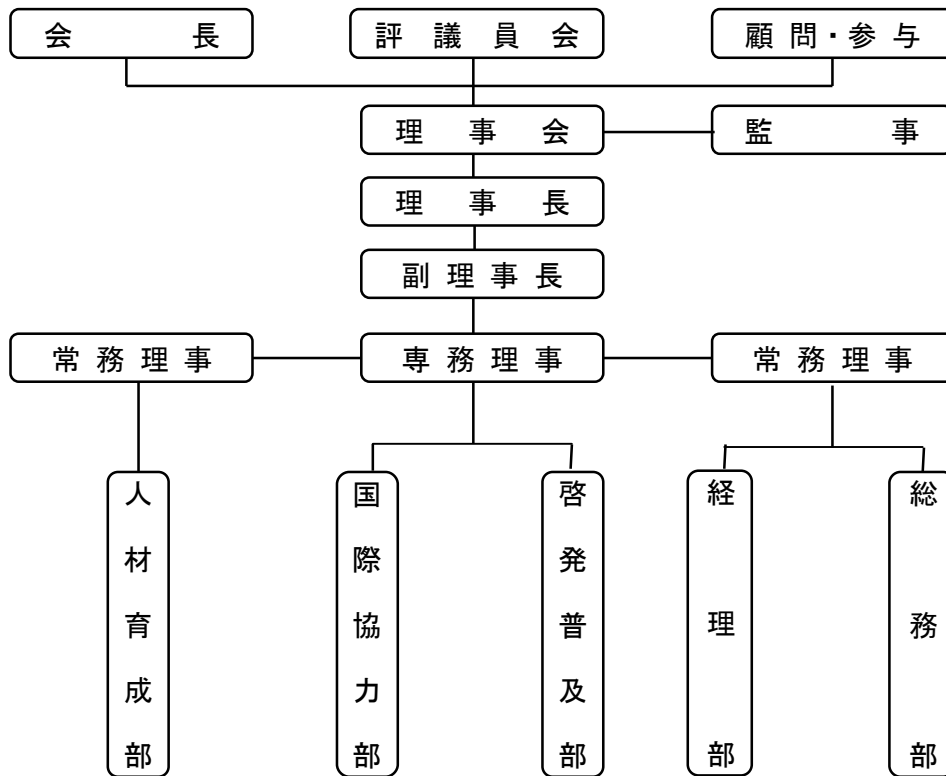
(5) 監事

No.	氏名	役職
1	榎本 哲 也	弁護士
2	神山 敏 夫	公認会計士
3	鈴木 稔 充	弁護士

〈50音順、平成 23 年 3 月 31 日現在〉

3. 事務機構及び職員

(1) 機構図



〈平成 23 年 3 月 31 日現在〉

(2) 職員

平成 23 年 3 月 31 日現在における本法人職員は次のとおりである。

事務所	職員	職員数
本部		65
西日本研修センター		17
中部日本研修センター		18
四国研修センター		7
関西研修センター		3
地方組織		17
合計		127

4. 賛助会員の動向と会費入金額

会員件数：4903 件。前年度より 290 件減少。（平成 21 年度期末会員件数：5193 件）
 会費入金総額：153,140,000 円。前年度比 9,557,000 円減額。（平成 21 年度入金額：162,697,000 円）

◆平成22年4月1日～平成23年3月31日 賛助会員の動向と会費入金額

	期首会員数				会員動向						期末会員数				会費入金額				入金率(%)		
	合計 件数	法人		新規	退会		再入会		その他 変更 別・就 変更など	合計 件数		法人	個人		法人	個人		法人	個人		
		個人	法人		個人	法人	個人	個人		法人	個人		個人	法人		個人	個人		法人	個人	
本部直轄	231	80	151	11	1	28	14	14	1	0	2	4	217	72	3,400	4,822	2,140	77	63	91	
広島県支部	90	42	48	2	0	9	2	7	0	0	0	0	83	40	2,200	3,010	2,120	93	96	90	
北海道支部	85	41	44	3	0	4	0	4	0	0	0	1	84	42	1,800	2,708	1,900	93	102	83	
宮城県支部	107	47	60	3	0	7	2	5	1	0	0	0	104	45	3,300	4,744	3,500	106	106	105	
首都圏支部	491	186	305	20	4	61	27	34	1	1	-3	2	448	166	18,225	21,936	15,710	96	97	95	
山梨県支部	143	61	82	13	0	15	2	13	0	0	0	5	141	64	6,594	4,590	3,020	100	89	101	
長野県支部	219	98	120	5	0	15	4	11	0	0	-1	0	208	95	4,050	5,726	3,680	91	91	92	
静岡県支部	380	121	239	7	0	30	13	17	2	2	0	1	339	111	2,228	10,540	2,046	95	93	96	
愛知県支部	1,004	246	758	54	0	121	28	93	6	0	1	1	944	225	6,800	4,354	4,200	95	92	96	
岐阜県支部	224	93	131	3	0	28	10	18	0	0	1	0	200	84	4,308	26,914	13,110	84	92	96	
富山県支部	146	63	83	1	0	12	5	7	1	0	0	0	136	58	3,760	5,634	3,600	92	89	106	
関西支部	150	46	104	12	0	21	7	14	0	0	2	2	143	39	2,800	4,346	2,980	98	89	82	
四国支部	637	167	470	28	0	43	8	35	7	4	0	0	629	163	4,140	5,238	3,380	86	90	90	
愛媛県支部	168	39	129	4	0	4	0	4	3	2	0	0	171	40	8,740	16,546	7,700	90	88	92	
西日本支部	1,138	439	699	30	1	123	31	92	10	10	1	1	1,056	420	20,410	37,294	19,950	95	98	92	
合計	5,193	1,770	3,423	196	8	520	153	367	32	25	3	16	4,903	1,664	96,195	153,140	90,710	94	94	94	
										7		13		3,239		66,502	82,430	62,430			